

# 令和5年度 学力向上プラン

学校名 中央区立月島第三小学校

## 学校の教育目標

・よく考える子      ・心ゆたかな子      ・健康な子

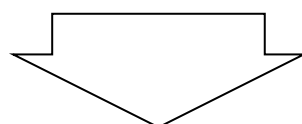
教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

・各教科等の学習が横断的・総合的に進むよう工夫するとともに、基礎的・基本的な内容の定着を図るため、年間指導計画や指導方法の改善に努め、問題解決的な学習や自然体験、交流活動などを通し、思考力・判断力・表現力等を育成する。

令和4年度「学習力サポートテスト」や令和4年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	「令和4年度学習力サポートテスト」において、書く領域が全体的に低く、6割程度の正答率だった。文章を要約したり、書こうとすることの中心を明確にしたりして、文章を書くことに課題のある児童がいる。	伝えたい内容を絞ったり、要約して書いたりする力が身に付いていない。事柄の順序や段落相互の関係に注意して文章を構成する力が身に付いていない。
算数・数学	「令和4年度学習力サポートテスト」においては、基礎的な内容は理解しているが、それを活用する力が弱いことが分かった。（7割弱程度の正答率）また、図形領域で4.5年が6割程度の正答率だった。7月に行ったベーシックテストの分析では、2.3.4年では図形、文章題が弱く、5年は、分数の計算、面積6年生では公約数、人口密度の単元に課題があることが分かった。	問われていることを言い換えたり、図式化したりする力が身に付いていない。 日常生活における算数的な活動が不十分である。 図形などの復習が不十分である。
社会	「令和4年度学習力サポートテスト」において、4年では、市の様子の移り変わりの正答率が約6割、5年では、伝統文化、先人の働きが7割弱と低く、6年は産業と情報との関わりが約6割程度の正答率であった。 地図やグラフなどの資料から読み取る力が弱い。 （約5割程度の正答率）	日常的に地図に親しむ経験が少なく、地図やグラフから読み取る力が弱いと考えられる。 それぞれの情報のもつ意味を自分の日常生活と結び付けて考えることを苦手としている。
理科	「令和4年度学習力サポートテスト」においては、基礎的な内容は理解しているが、それを活用する力が弱いことが分かった。（6割弱程度の正答率）また、全体的に物質・エネルギー領域の6割と低かった。	植物や昆虫にふれ合う機会が少なく、それらに興味・関心をもつ体験や経験も不足していることが考えられる。校内においても観察についての意図的な働きかけや取組は十分とはいえない。 仮説を立てたり、仮説を解決するためにどのような実験が必要かを考えたりする授業ができていない。

英語	「令和4年度学習力サポートテスト」において、どの領域も区平均を上回っていたが、本校の課題としては、アクティビティ等での児童や教員と話すときに、安易に日本語で伝えようとするところがある。	外国人と話した経験が少ない。授業において、児童が安易に日本語での話をする雰囲気がある。
体育・保健体育	①全身持久力、投力の面での改善が必要である。 ②器具や用具を使う運動というよりも自分の体をうまく動かしたり操作したりという面で課題がある。	個々の児童の運動経験や生活習慣といった個人差が大きく影響している。児童数増加による外遊びの機会が制限されていることもある。マイスクールスポーツの縄跳びを年間取り組んできたが、まだ体力向上に結びつくまでに至っていない。
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く態度を重視し、常に傾聴する姿勢を身に付けさせる。学習用具の準備やノートのとり方など集中して学習に取り組める習慣を身に付けさせる。</li> <li>・学習力サポートテストの正答率が都平均以上を目指す。(約80%)</li> </ul>
	算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決的な学習や体験的な学習を単元の目標に応じて意図的に設定する。</li> <li>・学習力サポートテストの正答率が都平均以上を目指す。(約80%)</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題や作業の手順を明確に示し、授業におけるゴールを児童がイメージできるような授業を行う。教師が個々の課題を明確に把握するとともにそれぞれに応じた支援方法を定め、実践し、検証する。</li> <li>・学習力サポートテストの正答率が都平均以上を目指す。(約80%)</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決的な学習や体験的な学習を単元の目標に応じて意図的に設定する。</li> <li>・学習力サポートテストの正答率が都平均以上を目指す。(約80%)</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習力サポートテストの正答率が都平均以上を目指す。(約80%)</li> </ul>
	体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストについて、どの種目も都平均以上を目指す。また、投力を重点的に指導し、都平均以上約80%達成を目指す。</li> </ul>
②授業改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人が課題に向き合い、自力で取り組もうとする課題や発問を考えると同時に、ペアやグループでの学び合いが効果的になるような学習展開を設定する。</li> <li>・問題解決的な学習や体験的な学習を単元の目標に応じて意図的に設定する。</li> </ul>
③家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での学習習慣を身に付けさせるために、家庭に対して宿題チェックや学習用具の準備をお願いするとともに、児童と学習についての会話を増やしたり、苦手な部分を把握したりすることを重視して家庭と連携する。</li> <li>・保護者・児童のアンケートで、家庭との連携に対する肯定的な評価が80%以上になることを目指す。</li> </ul>
④体力向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人の運動に親しむ習慣や体力状況に応じた授業を意図的・計画的に実施する。</li> </ul>



## 【目標達成のための具体的な取組内容】

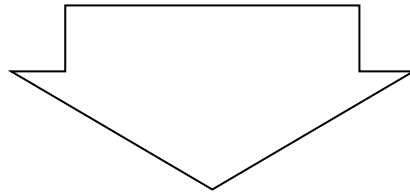
①各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を書く機会を増やす。</li> <li>・切り返しの発問の仕方を工夫し、付け足しなどの発言を増やす。</li> <li>・読書の時間をしっかりととり、長い文章に慣れさせる。</li> <li>・はげみタイムの使い方を学年で合わせて、短文要約や日記に取り組む。</li> </ul>
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読カードに毎日入れて、九九を定着させる。</li> <li>・実物に触れ、量感を高める。</li> <li>・幅・高さ・厚みなどの語彙を増やす。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「意味言語」を児童が考えられる授業にする。</li> <li>・地図を活用する単元の設定をする。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を日常生活に活かして、忘れないようにする。</li> <li>・生物やよい実験教材を取り入れ、実物に触れさせる機会を増やす。</li> <li>・国語で学んだことを活かし、観察は比較を大切にしながら文章を書く。</li> <li>・苦手な単元を来年度にも復習する。</li> <li>・教科担任制により、統一した指導を行う。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概要を掴むことを目的としたリスニング練習を繰り返し行う。</li> <li>・英語での指示を簡潔にしたりジェスチャーをしたりして、理解できたという経験を積ませる。</li> </ul>
体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縄跳びチャレンジとともに、体力向上に向かう取り組みをはげみタイム、休み時間を活用して行う。</li> <li>・投力向上につながる運動を体育の授業でも取り入れていけるようにする。</li> </ul>
②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話の進め方を指導し、対話を活用した学習活動を取り入れる。何について話し合うのか、視点を意識して話したり聞いたりする習慣を身につける。</li> <li>・聞き合う取り組みを通して、受容的態度を身に付け、他者から学ぶことの良さを実感できる授業作りを目指す。</li> <li>・ペア活動やグループ活動を多く取り入れて、児童がすすんで発表する力を身に付けさせる。根拠をもって意見が言えるようにする。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の「考えを述べる、説明する」力を付けるために各教科において書くことの日常化を図る。主語、述語を意識して、文章を書かせる。</li> <li>・問題や図表等から読み取ったことを基にして、分かったこと、考えたことを相手に伝える活動を取り入れる。そのために、読む視点を明確に示したりねらい達成のための読解力の視点を適切に取り入れれたりする。</li> <li>・体験学習・問題解決学習を重視した授業改善を図る。</li> </ul>

### ③家庭との連携

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童の学習状況をもとに、放課後の補習（算数等）の取組について保護者に理解を求めていく。</li><li>・保護者会や個人面談、学校便り、学年便り、ホームページ等で学校からの協力してほしいことを繰り返し伝える。またそれによる成果や課題も示していく。</li><li>・毎日の共通の宿題や自主学習の習慣が身に付けさせるために家庭学習への理解を求めていく。個人に配布されたタブレットを活用していく。</li></ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"><li>・生活科や総合的な学習の時間等で、地域や保護者と積極的に関わるような学習活動に意図的・計画的に取り組む。</li><li>・保護者との関わりについては学年として対応するように心掛け、それぞれの学級での問題や悩みも学年の教員、専科等と協力して解決を図る。</li></ul>

### ④体力向上

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"><li>・バランスよく体力向上ができるように、学年毎に体力テストの結果を分析し、弱点を明らかにする。</li></ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ボールを扱う運動を取り入れる際に、学年に応じて動きのコツを示しながら楽しんで取り組める内容を考える。</li><li>・どの学級でも体幹を鍛える運動を準備運動の段階で共通して取り入れる。</li><li>・縄跳びの活動を積極的に行う。短縄では、縄跳びカードの活用やゲストティーチャーを招いての指導などを行い、長縄では、全校で取り組み期間を設け、互いに切磋琢磨できる場を設けるなどをする。</li></ul>



## 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	行事や体験活動等、児童が書きたくなる機会をとらえ、文章を書かせたり、読み合いをしたりすることによって文章構成を考えたり、より詳しく書いたりする力が高まった。	書くことの内容を明確にし、文章を要約して書く力が身につけていない。書く場面だけでなく、話す・聞くでも、話の内容の中心を意識させるようにする。
	算数・数学	家庭学習と連携することで、基礎学習を定着させることができた。実物に触れる機会を増やし、量感を高めた。	家庭と連携を図ることを継続し、基礎学習を定着させていく。校内の教具を整理整頓し、どの学年でも使いやすい環境を作る。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「意味言語」をつかって児童がまとめられるように、「なぜ〇〇をしているのか」という、社会的事象の意味を問う授業を計画し、実践できた。</li> <li>・単元の導入等で、地図帳を使って授業を計画したので、地図帳に対しての認識が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての単元で「意味言語」を意識した発問をしたり、全ての児童が単元のまとめに「意味言語」を入れて書いたりすることはできなかった。</li> <li>・地図帳を児童が使って調べる活動を計画することはできなかった。</li> </ul>
	理科	理科の問題集を活用するなどして、前に学んだ単元の復習に定期的に取り組んだ、	比較、関係づけなどを意識した観察文を書くのが弱い。文型を提示するなどの工夫が必要である。
	英語	英語を聞き概要を掴む能力が向上した。簡単な英語であれば、前向きに聞こうとする姿勢が身についた。	概要以上の詳細な内容まで粘り強く聞こうとする児童が少ない。授業中の英語の割合を増やし、英語に触れる機会を増やすことで、詳しく聞き取る活動に慣れさせる。
	体育・保健体育	縄跳びギネスチャレンジに向けて、学校全体で縄跳びに取り組むことで、技のや投力の向上に効果がみられた。また、縄跳びでの持久跳びの取り組みを行うことで、体力向上にもつなげることができた。	室内プールを最大限に活用し、水泳指導でも体力向上にもつなげる取り組みを縄跳びとともに進めていく。
② 授業改善		児童が一人で考える時間、ペア・グループで学び合う時間を意識して学習展開を行った。	体験的な学習を単元に応じて位置付ける。
③ 家庭との連携		「基礎学力が身に付いたか」のアンケートに対し、8割以上の肯定的な回答を得た。	日々の連絡や保護者会や個人面談、学校便り等を通して、引き続き家庭との連携を図る。家庭学習について理解を求め、基礎学力を高める。
④ 体力向上		委員会活動と連携し、全校で縄跳びの取り組みを行い、楽しみながら跳ぶ力を付けた。	共通認識を図り、全校で取り組める内容を続けていく。